

大腸がん検査「積極的に」

製鉄記念室蘭病院 セミナー

早期発見の重要性を説く

らは大腸がんを見つける検査方法や内科的治療の現状などに理解を深めた。

約50人が耳を傾ける中、安部智之消化器内科・血液腫瘍内科主任医長が、大腸がんに関する基礎知識と検査、病期、治療、予防の現状などを解説。身近な検査法の一つ、便潜血反応の室蘭での受診率が6・37%と、全道平均の3分の1にとどまる現状を踏まえ、「早期発見と早期治療のため、ぜひ受診を」と強調した。

その上で、病期に応じて、内視鏡手術や放射線治療、化学療法、緩和ケアを使い分けるーなど、「(診療ガイドラインに沿った)『アルゴリズム』があり、治療への態勢がしっかりしている」とも説明。進歩する治療を生かすため、早期発見の重要性もあらためて呼び掛けた。(松岡秀宜)

製鉄記念室蘭病院(前田征洋病院長)の「第33回がんセミナー」が16日、室蘭市知利別町の同病院がん診療センターで開かれ、市民



大腸がんの内科的治療などについて解説する安部消化器内科・血液腫瘍内科主任医長